

九、東伊豆町の昔話

(一) 大川・石神大明神いしがみだいみょうじん

大川を流れる向田川むかいだがわを山の方へ向かって五キロメートルほど登っていくと、川の水がたまつて深くなつた淵ふちがあります。この淵には高さが十五メートルほどもある切り立った岩があり、この大きな岩の下には石神神社いしかみじんじやが祀まつられていたと言われています。この神社のとなりには石神大明神が祀られ、この石神大明神には次のようなお話が伝わっています。

昔、大川では子供がいなくなつてしまふ「神隠しかみかく」がよくありました。かくれんぼをしていた子供たちが何人かなくなつてしまつたとのこと。いなくなつた子供の家では、村の人にお願いをして、あちこちを探しますが、神隠しにあつた子供は見つかりませんでした。

あるとき、たいへん勇気がある、ある家の主人しゅじんが「隠されたなら、必ず隠した者がいる

はずだ。おれがそいつを探しだしてやる。」といつて、あちこちを探しまわりました。向田川をさかのぼり山奥まで入っていくと石神神社にたどり着き、この神社がありがたいと思つて、神社まわりを探し回りました。

そんなある日の夜、主人は大きな蛇へびの夢を見ました。夢の中で大きな蛇は「神隠しにあつた子供は、おれが食べてしまつた。もう、こんな悪いことはしない。これから病氣にかかつた子供を助けてやるから、もう探さなideくれ。向田川の山奥に石神大明神として祀つてくれたら、病氣の子供を助けてやる。」と主人に語りました。

次の日、主人は村人にこの話をして、石神神社のとなりに白蛇を石神大明神として祀ることにしました。それからは、大川では「神隠し」がなくなり、村人は子供が病氣になると、この石神大明神におまいりをして病氣をなおしてもらつたとのこと。